

- シリーズ沼津兵学校とその人材 101
代戯館の教師 亀里樗翁と築山章造
- 令和元年度新収資料の紹介
- 令和元年度当館収蔵資料の使用
- 史料館からのお知らせ
- 資料紹介

二〇二〇年四月

通卷141号

沼津市明治 史料館通信



『大日本輿地全圖』（明治6年刊、沼津尚古軒版）
（当館蔵）

代戯館と沼津兵学校附属小学校、さらに小学集成舎で教鞭をとった石川東崖による作図。小学校における地理の教育用掛け図として使用されたと思われる。石川は後に上京し、自勉舎・静修館といった私塾を開き、皇学・漢学・歴史などを教えた。
（樋口雄彦）

明治元年（一八六八）九月に沼津城下の添地の長屋に開設された代戯館は、移住早々の旧幕臣子弟を教育するための仮設学校であり、翌月には閉鎖されたものの、その教授や生徒は沼津兵学校附属小学校へ継承されることとなった。いわば兵学校附属小学校の前身であり、荒筵を敷いて席を設け、雨戸に墨を塗って黒板代わりにするといった粗末な設備でありながら、四五名の教員が五・六十人の生徒に素読・手習・算術を教えた（『沼津小学沿革史』、『沼津兵学校附属小学校』、『沼津市誌』下巻）。

沼津兵学校の教授たちの中には、いまだにその履歴が判明していない人物がいる。代戯館の



代戯館跡の碑

（沼津市西条町・沼津情報ビジネス専門学校前）

正面には「明治元年 代戯館 添地に始まる」、裏面に「第一小学校創立150周年記念 第一地区コミュニティ 平成三十年九月十二日」と彫られている。実際には2019年3月の建立。代戯館の正確な位置は不明であり、ピンポイントでこの碑の位置にあったわけではない。

教師から附属小学校素読教授方並へと横滑りした亀里樗翁もその一人であった。『沼津御役人附』といった職員名簿には「樗翁」の名で掲載されており、その本名（通称）すら従来知られていなかった。今回わずかながら彼の前歴がわかったので以下に紹介したい。

頭取西周が書き残した沼津兵学校創立当初の書類中に、教授を選ずるにあたってのメモがあり、「小学校手跡教授方当分出役」として「亀里義之助」の名前が記されていた（拙稿「西周による沼津兵学校創立時の記録」『沼津市博物館紀要』36）。実際に附属小学校教授に就任した永井直方・石川東崖らの名前が並んで記されていることから、義之助と樗翁が同一人物であることは間違いないと思われる。西のメモには「隠居ニ付加俸拾五兩 式拾兩」ともあり、樗翁は隠居してからの号だったと推測される。

樗翁こと亀里義之助は、昌平黌で学び教えた漢学者だった。文政一年（一八二八）に昌平黌学問吟味に甲科で及第した四名のひとりとして「林大学頭書物方御用出役弥太郎弟 小貫義之助」という名があるが（『昌平学科名録（其一）』『江戸』第三巻第四綴）、それが樗翁である。亀里姓になる前は小貫姓だったことは、文政一年八月に学問所（昌平黌）の世話心得に採用されて以降の昌平黌の記録（『昌平坂学問所日記』I・II）から明らかで、記事中、天保二

年（一八三一）三月までは小貫姓、同年八月以降は亀里姓に変わる。たぶん小貫家から亀里家の養子に入ったのであろう。

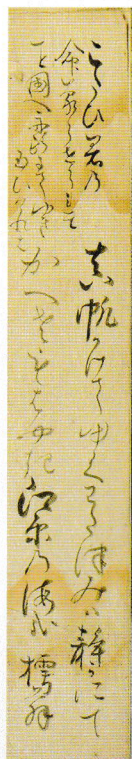
学問所の世話心得は、生徒の素読指導にあたるスタッフで、他に世話心得佐・世話心得取締・世話心得頭取といった階級があった（倉沢剛『幕末教育史の研究』一）。昌平黌の日記には、文政一二年から天保九年（一八三八）にかけて生徒の新規入門の「申込」をたびたび上申していることが記されているほか、「御座敷講義之助」（天保一二年一月二四日）、「北楼朝講義之助」（八月一九日）、「夕講義之助」（八月二九日）、「北楼朝講義之助」（二三年四月九日）、「御座敷講義之助」（四月一九日）といった具合に、亀里（小貫）義之助の仕事ぶりが記録されている。天保一一年七月から一三年（一八四二）までは教授方出役をつとめ、納戸番に転じた（真壁仁『徳川後期の学問と政治』）。

樗翁の兄小貫弥太郎は、御勘定をつとめた五左衛門の孫、小普請世話取扱をつとめた五左衛門の子で、文政四年（一八二一）に父の跡を継ぎ、天保一四年（一八四三）小普請世話取扱、弘化四年（一八四七）小十人組、安政二年（一八五五）新御番という経歴をたどり、文久三年（一八六三）時点では七三歳だった。樗翁も明治初年には高齢だったと思われる。息子の亀里鏡四郎は沼津兵学校附属小学校附の役職に就いて

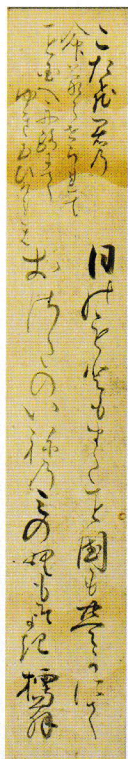
いるが、江原素六率いる撒兵隊の脱走に加わった差図役頭取「亀里鍔五郎」（拙稿「江原素六の戊辰時脱走抗戦関係史料」『沼津市博物館紀要』33、一七頁）と同一人物か。

なお、小貫五左衛門の子で、地誌調所調方出役並として「新編武蔵風土記」の編纂に参加した学問所勤番組頭亀里権左衛門（章）の養子となり、天保一〇年（一八三九）養父の跡式を継ぎ、小十人組・御納戸番・同組頭などをつとめた、高四〇〇俵の「亀里蔵之助」なる人物がいるが（『江戸幕臣人名事典』第二巻）、「蔵」は「義」の誤読であり、これが樗翁のことであろう。

樗翁には、「こたひ君の命蒙らせられてこと国へ舟路にてゆき玉ひければ」との前書きで、江原素六がアメリカ視察に旅立つ際に贈った二首が自筆の短冊で残されているので、和歌も得意だったのだろう。兵学校附属小学校での同僚の



こたひ君の
命蒙らせられて
こと国へ舟路にて
ゆき玉ひければ
真帆かけてゆくわたつみは静かにて
かへさもはやき江原の海哉
樗翁



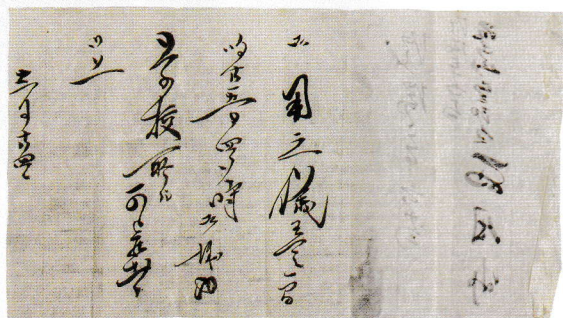
日のもとまたこと国も豊かにて
みつたのいねのみのりもそよき
樗翁

日記から、樗翁が明治六年（一八七三）六月二日に死去したことが判明する（拙稿「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記」『沼津市博物館紀要』23）。

なお、樗翁とともに代戯館で漢籍を教えた築山章造（正三郎）は、天保十一年（一八四〇）西丸御先手組同心仮御抱入、文久三年二条御城勤番、元治元年（一八六四）御暇といった経歴をもち、明治四年時点で五三歳、一四年（一八八一）九月三日に没している（築山確郎「由緒書」他）。安政三年（一八五六）六月二十九日に「御二階稽古」を願ひ出たほか、七月一日には「奥六尺関伝説出席いたし初見致し候」との記録もあることから（『昌平坂学問所日記』Ⅲ）、昌平費で学んだことがわかる。また、慶応四年（一八六八）一月に実施された学問吟味の出願者山菅恒（鉢之丞、後静岡学問所五等教授）は、嘉永六年（一八五三）一二歳の時に築山正三郎に入門したという記録があることから（橋本昭彦『江戸幕府試験制度史の研究』）、弟子を指導する立場にもあったらしい。築山は兵学校附属小学校教授に一旦は就任したものの、西のメモには「七月十日御免」とあり、すぐに辞職したらしい。一二月二十四日付（明治元年であろう）で西周から「城内学校所」へ出頭せよとの令状が出されているが、用件は不明である。息子確郎は生徒になっている。築山家には確郎の顔写真とされるもの

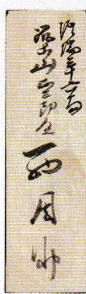
亀里樗翁の和歌短冊
（当館蔵）

日記から、樗翁が明治六年（一八七三）六月二日に死去したことが判明する（拙稿「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記」『沼津市博物館紀要』23）。

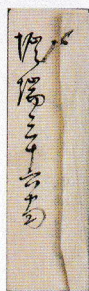


西周助から築山正三郎への出頭令状
（当館蔵）

御用之義有之候間
明廿五日四ツ時
御城内
学校所江
可被罷出候
以上
十二月廿四日



堀端三十六番
築山正三郎殿
西周助



堀端三十六番

が残されていたが（拙稿「地域史上の沼津兵学校」『沼津市博物館紀要』10）、写真の古さと被写体の年齢を勘案すると、写っているは確郎ではなく章造かもしれない。

他に代戯館の教師には、漢籍の石川東崖、洋算の大平俊章・山内某がいたとされる。兵学校附属小学校教授になった石川と兵学校資業生になった大平については、すでに他の文献で紹介されているので（拙著『沼津兵学校の研究』など）、ここでは繰り返さない。（樋口雄彦）

令和元年度新収資料の紹介

昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	安藤 香織 様 青木恵美子 様 片山 武士 様 田邊 正 様 地域コミュニケーション研究会 様	山口知重関係資料 築山章造・確郎関係資料 日の丸寄せ書き 本陣清水家伝来「屏風」 沼津宿本陣清水家伝来「お万の方より拝領の帷子」・「谷文晁画幅」	購入	訳「換笏 第四」『同好会雑誌号外』・永峰秀樹（資業生）校閲『新撰数学』・山田昌邦著（兵学校教授）・赤松則良（兵学校教授）校閲『小学対数表』・荒川重平（資業生）『代数学教授書』・田付直男（資業生）著『地理学講義』・新家孝正（資業生）論考掲載『住宅』第59号
	寄託	新家 春江 様		沼津の歴史関係 深沢要橋（旧沼津藩士）発行『写真新報』・沼津宿本陣清水家伝来「備前守より拝領の御菓子入」・沼津宿本陣清水家資料（文書80点）・「忘れまい沼津の見立」
購入	沼津兵学校関係 「THE FAR EAST」157（COLLEGIANS NUMADZU掲載）・林洞海『ワートル薬性論』・林若樹旧蔵肖像画「林洞海」「洞海夫人」・『戊辰戦記画巻』・島田三郎「働詞		絵葉書 「戸田港全景」（2枚組）・静浦風景（7枚組）	

令和元年度当館収蔵資料の使用

明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

7月	ふじのくに茶の都ミュージアム 第6回企画展「知って得するお茶のヒ・ミ・ツ」写真「江原素六」
9月	西浦コミュニティ文化展 写真「Discover Numazu アゲイン」セット
10月	ウエルシアらばーと沼津店 写真「沼津駅前」「仲見世商店街」など計10点
10月～2月	静岡県埋蔵文化財センター巡回展「いつもそばに動物がいた」模型「元野牧捕込」
2月～4月	沼津信用金庫 「地域防災企画展」地震関係展示パネルセット
2月～5月	沼津市歴史民俗資料館 企画展「そだてる漁業 養殖をめぐる沼津の一世紀」「各種通知綴」（中沢田区有文書・寄託）
2月～6月	東京都写真美術館 「日本初期写真史 関東編」ガラス版写真「大築尚志」（大築尚志関係文書）
3月～5月	土浦市立博物館 第41回特別展「土浦城一時代を越えた継承の軌跡―」 「山本家略系図・由緒書」「天野長重書状」「土浦城古土居・新土居郭切間敷之覚」（山本家文書・保管）
3月	門池コミュニティ「わたしたちのふるさと写真展」模型「門池の龍」「牧堰門池用水水系ジオラマ」

☆刊行物掲載

4月	沼津市水産海浜課「島郷海岸の清掃イベント」絵葉書「桃郷より牛臥山」
7月	公益財団法人米山梅吉記念館『米山梅吉ものがたり』写真「沼津中学校」（大井シゲ氏寄贈）「徳川家達公育英会用語で来沼於城岡神社」（井口省吾関係資料）
12月	株式会社デアゴスティーニ・ジャパン『週刊 日本の城』第155号「大浜陣屋絵図」（旧沼津藩士杉浦家資料）
12月	株式会社レクテック出版部門 出版舎・風狂童子『勝海舟関係写真集』写真「勝海舟葬列」（中村六三郎関係資料）写真「フロックコート姿の勝海舟」（旧幕臣安原家資料）写真「勝海舟」（旧幕臣高橋家アルバム）
12月	公益社団法人江原素六先生顕彰会『江原素六先生顕彰会会報』第30号 写真「江原素六と家族」（江原素六関係史料）
1月	株式会社沼津朝日「沼津朝日新聞」令和2年1月1日 写真「本町通り南口」「本町角の古安」（2点とも広報課より移管）
3月	学校法人中央大学 中央大学グローバル館壁画 写真「西川鐵次郎」（西川鐵次郎関係文書）
3月～5月	南駿農業協同組合 新茶テラシ 写真「江原素六」

☆テレビ等映像・その他

8月	静岡朝日テレビ 県内ニュース「沼津市戦災概況図」写真「空襲後の沼津市街地」（旧幕臣大野家資料・寄託）など計7点
9月	公益財団法人米山梅吉記念館 米山梅吉記念館創立50周年記念式典・講演会 写真「江原素六」・『英国史略』・『十八史略』・写真「沼津中学校」・「沼津新聞」
10月	BS-TBS「関口宏のもう一度！近現代史」錦絵「河鍋晩斎画 東台戦争落去之図」
12月	南駿農業協同組合 第50回沼津農林まつり 50回記念ムービー 絵葉書「茶の静岡県」5点・写真「江原素六」など計10点
1月	沼津市緑地公園課「御用邸のある街～NUMAZU～」トークショー「駿河国駿東郡沼津町略図」・絵葉書「桃郷牛臥海岸」「海上より見たる牛臥の富士」「御用邸海岸より見たる富士」など計14点

人事異動

3月31日付で事務補助員遠藤恭子が市民課へ異動。4月1日付で事務補助員杉本香苗が着任しました。今後ともよろしく願いたします。

史料館からのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大対策のため、「そろくまつり」は中止します。その他の事業につきましても、期日・期間の変更の可能性があります。詳しくは当館HPでご確認ください。皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

資料紹介 疫病退散！ 沼津のアマビエ!!

沼津市明治史料館通信

第141号

令和2年4月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055-923-3335
FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

神池姫

（戸田 勝呂家資料）

戸田の名主の家に伝わっているもので、身体は魚、頭は女性で角が生えている巨大な人魚が描かれています。

江戸時代の終わり頃、安政5年にコレラが大流行した際に描かれたものと推測され、文政2年（1819）に出現し「7年間は豊作が続くが、徳の無い者は三日ころりで死んでしまう」と予言し、「禍を避けたければ我が形を写して張るべし」と言ったそうです。

